

社団法人私立大学情報教育協会
平成20年度 第2回社会福祉学教育 FD/IT 活用研究委員会

I. 日時:2008年10月7日(火)午後1時～3時

II. 場所:私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席:前田委員長、天野委員
井端事務局長、森下、恩田

1. 社会福祉学教育における学士力案～作成の経緯と結果

(1) 作成の経緯

前回の会議の後に、委員会において決定した学士力の案に関して、「社会福祉分野で要求される学士力」に焦点をあて、委員が社会福祉の現場の関係者から意見や具体案、またフィードバックを受けた。それらの内容については、事務局からのメールあるいは委員からのメールを通して、委員間で共有し、意見交換をおこなった。

その後、委員会案を社会福祉分野の私立大学教員にインターネットを通じて投げかけ、意見を求めた。委員会案に同意する意見のほか、補足意見、質問、その他の意見などが本協会に寄せられた。

本日の会議では、私立大学教員からの意見等を検討し、共通して提案されている内容、採用すべき意見等をひとつひとつ確認していった。

その上で、前回の案を再度検討し、類義語や重複表現、わかりやすさ、シンプルさなどに配慮した上で、「～できる」という表現で文末を統一することとした。

結果として、以下のような最終案を合議により作成した。

(2) 最終案

社会福祉学教育の学士力(案)

- ① 人間と社会環境の視点から、現代社会の生活に関わる諸問題を把握し、改善・解決に必要な社会福祉の仕組みを理解できる。
- ② 人権尊重及び社会正義の理念を確認し、ソーシャルワークの目的・価値・倫理の概要を理解できる。
- ③ 利用者を理解し、利用者ニーズを分析できる。
- ④ ソーシャルワークの専門的な知識及び技術を身につけることができる。
- ⑤ 社会福祉に関する制度・政策を客観的に分析し、社会に必要な資源やサービスプログラムを企画する応用力を身につけることができる。

2. 今後の活動について

年度内に、委員会を開催し、学士力の評価方法等についての案を議論する。

なお、今回作成した学士力最終案は、本協会として分野ごとにとりまとめ、文部科学省に報告する予定である。